

【1】高島プログラムに基づく具体的な取組

(1) 共同授業研究システムについて

○今津中学校区小中一貫教育の日（統一日）の設定

- ・一学期と二学期に1回ずつ、一学期の会場を2つの小学校（今津北小学校と今津東小学校）、二学期の会場を今津中学校とし、小中学校の教員が8つの部会（特別支援、道徳、国語、算数・数学、社会、理科、英語、食育）に分かれて合同で研究授業を行った。少人数の部会で取り組むことで、小中の教員一人ひとりが自覚や責任を持てるようになり、人任せにできなかった。
- ・小中学校のお互いの児童生徒の様子や授業を参観し合うことで、本校区の児童生徒の実態がそれぞれ把握でき日常の生徒指導にいかしていった。

○取り組みの重点

- ・小中9年間の学びが「連続性を持った」「主体的、対話的で深い学び」になるように小中教職員が合同で授業改善に取り組み、児童生徒一人ひとりの学力向上につなげる努力をした。
- ・小中の教職員が指導方法などを学び合い、各自の授業改善にいかしていった。

(2) 小学校の教科担任制について

○今津北小学校

- ・教務主任が算数科の教科担任（以下「算数専科」という）として、5年生の授業（5時間）を担当した。授業はチームティーチング（以下「TT」という）の形態をとったり、単元により、習熟度別に分けて指導したりしてきた。習熟度別のクラスに分けるときは、きめ細やかな指導支援加配の協力も得てきた。TTの形態で授業を行うときは、単元によりT1とT2の役割を交代してきた。
- ・5年担任が児童のレディネスを把握し、教務主任と担任が共同で、つきたい力を明確にして教材研究や準備を行ってきた。5年担任がICTを駆使し、教務主任が単元構成を常に再構成しつつ指導にあたってきた。生徒指導上の課題を抱える児童が多い中、学習に向かう体制づくりに努力してきた。
- ・教務主任は6年生の算数科の授業（5時間）のTTも担当している。

○今津東小学校

- ・非常勤講師が算数科の教科担任（以下「算数専科」という）として、6年生2学級の授業（計10時）を担当した。授業はチームティーチングの形態をとり、学級担任が算数専科の補助として、個々の児童のきめ細やかな指導にあたってきた。
- ・教材研究や教材準備を十分行った教員が指導にあたるのが可能になり、小学校の教科指導における課題をある程度克服することができた。県学び確認テストにおいて、期待する正答率と、自校の正答率が変わらなかったことにより、一定の成果が出てきているものとする。

(3) 学習環境づくりに向けた取組について

○取り組み例

- ・今津北小学校と今津東で取り組んでいる「聞くこと」「話すこと」を中心とした日々の根気強い指導を、今津中学校入学後も表現は違っても同じ視点で継続して行った。また、授業に必要な準備物を意識して授業に臨む習慣も小中継続して指導してきた。
- ・前述の「準備物」「聞く」「話す」に対する意識を高めるために、掲示物による「見える化」を工夫した。

- ・子ども同士の良き人間関係づくりを目指して、学級指導や教科指導を中心にペアやグループ活動を積極的に取り入れた。
- ・ICT 機器を積極的に活用するようになり、児童生徒の主体的な学習に効果を上げた。
- ・教室内の換気や児童生徒の個々の座席、黒板を含む前方の壁面を児童生徒が授業に集中できるように配慮した。

【2】平成30年度今津中学校区の「NEXT ONE」

(1) 特色ある取組

○今津中学校区小中一貫教育の日（統一日）の設定

- ・小中の全教員が小中合同の研究授業や授業参観ができるように、会場校でない学校は全児童生徒を給食後に下校させ、家庭学習とした。
- ・会場校でない学校の事務職員が学校待機を担当することで、出張などが無い教員は全員小中合同の研究授業と授業参観に出向くことができた。
- ・1回目の統一日では、基本的に5校時を公開授業、6校時に研究授業を設定していたが、2回目の中学校での統一日では、なるべく自習をなくし、授業を参観できる機会を増やすために、5校時と6校時のどちらでも研究授業が設定できるように変更して行った。
- ・今津北小学校で道徳、社会、理科の研究授業を、今津東小学校で特別支援学級の生活、国語、算数を2クラス、社会、英語の研究授業を実施した。
- ・今津中学校の研究授業は特別支援学級の生活、数学を2クラス、理科、英語、道徳を2クラス、社会を2クラス、国語を2クラス実施した。
- ・特に食育部会は養護教諭や栄養教諭、家庭科教諭が頻繁に部会を持って、小学校4年生と中学校の2年生で研究授業を実施することができた。
- ・研究授業に向けて、それぞれ部会を持ち、小中の教職員が合同で指導案を作成した。指導案と参観カード用紙は、それぞれの教室横に設置するようにした。参観カードには「学習規範」「主体的、対話的で深い学び」「その他」の3つの観点で気づいたことを参観者が記入して、回収したものを後日それぞれ部会に渡し、振り返りに活用した。

(3) 成果と課題

- ・2回の統一日を設け、当日は半日授業で児童生徒を下校させる日課にしたことで、全教員で取り組めた。また、小中合同の教員が少人数のグループで研究授業を行ったことで、人任せにしない主体的な取組ができた。
- ・「高島市小中一貫教育カリキュラム」の活用や「今津中学校区小中共通の学習の手引き」の配布と活用が不十分であった。
- ・児童生徒一人ひとりの学力向上に向けて取組の充実や見直しを積極的に行うべきであった。

【3】次年度の構想

- ・今津中学校区の小中一貫教育の日を今年度と同様に年2回設定する。
- ・「小中一貫教育カリキュラム」を活用した小中教員の共同授業研究による授業力向上をめざす。
- ・「家庭学習の手引き」の内容の見直しと学校、家庭での効果的な活用を行う。
- ・年間数回の「家庭学習強化週間」を実施することで、保護者の協力も得ながら児童生徒の主体的な学びと学力向上につなげる。
- ・「小学生の中学校授業・部活動体験」や「ようこそ先輩」の継続を含め、児童生徒間交流の場を増やしていく。そのことで児童生徒の自尊感情を高める工夫をする。